

HANDS



Kokura Memorial Hospital



いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表)

TEL.093-511-2062(医療連携課) FAX.0120-020-027(医療連携課) FAX.093-511-2032(救急室) 夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】

乳がんは大きく切除すれば治るということではありません。胸筋合併乳房切除と胸筋温存乳房切除の5年生存率と5年局所再発率は、複数のランダム化比較試験で適切な術後照射が行われれば有意差がないことが証明されています。当院では乳腺外科・形成外科がタッグを組み、乳房の形状を温存することを念頭に治療に取り組んでいます。



乳房の形状を 温存することを 念頭に。

乳がんは大きく切除すれば治るということではありません。乳房全切除と乳房温存術の5年生存率と5年局所再発率は、複数のランダム化比較試験で適切な術後照射が行われれば有意差がないことが証明されています。当院では乳腺外科・形成外科がタッグを組み、乳房の形状を温存することを念頭に治療に取り組んでいます。

乳腺外科

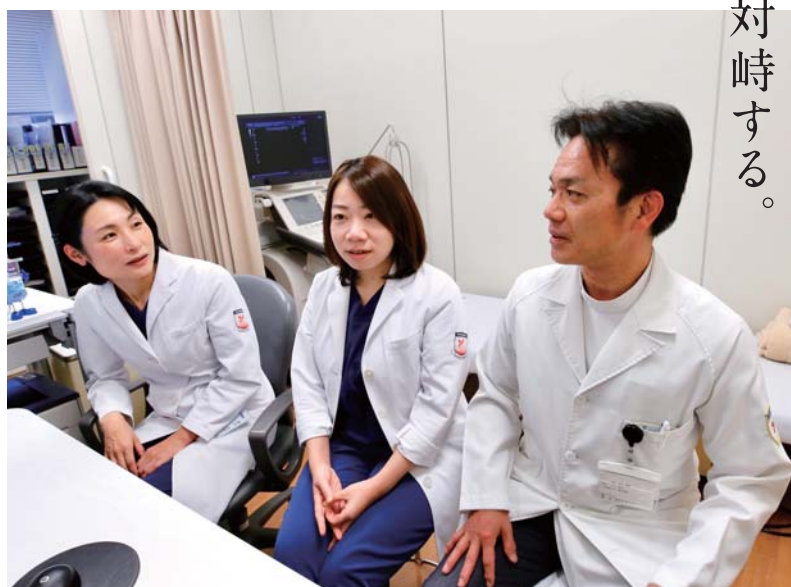
Breast surgery



確実ながん切除、

リンパ節の手術、乳房再建、

3つの柱で乳がんと対峙する。



乳房温存療法ではしこりと乳房の大きさのバランスが適切であること、広範囲の病変でないこと、離れた場所に多発する病変がないこと、放射線照射が可能なこと、そして患者さんが乳房温存療法を希望することが適応条件となります。乳房を部分的に切除するため、乳房喪失に伴うボディイメージの変化が少なく美容的に優れていますが、乳房内再発のリスクを減らすために術後の放射線治療が必要になります。「乳がんの取り残しがないように切除する」・「乳房の整容性を保つ」この相反する2つの条件を満たさなければなりません。乳がんの状態から乳房を全部切除する手術が必要となった場合、条件を満たせば乳房をつくること（乳房再建）も相談しています。乳腺外科では医師や看護師はじめとするスタッフが一緒に話し合い、患者さんに寄り添ったチーム医療を提供するよう心掛けています。



形成外科

Plastic and reconstructive surgery

一次再建、二次再建、
自家再建、人工乳房、脂肪注入、
形成外科医による患者さんに
ベストな再建術を提供。



日本乳房オンコプラステイクサーجヤリー学会・日本形成外科学会および日本乳癌学会が連携して作成しているガイドラインでは、人工乳房を利用した二次再建を行う場合には形成外科専門医と乳腺外科専門医が常勤で1名以上在籍する必要があると規定されています。当院では形成外科専門医と乳腺外科専門医が在籍しているため一次再建を行うことができ、特に形成外科医が乳房再建を行うことでより美容満足度の高い乳房再建が可能です。乳房再建術の方法は、感染に強く術後メンテナンスが少ないお腹や背中から皮膚を移植する自家再建、手術時間・入院期間が短く乳房以外の組織を傷つけないで済む人工乳房、自費診療にはなりますが、皮下脂肪の多い部分から脂肪を摂取し胸部に注入する脂肪注入など、患者さんにベストな再建術を提供できるように取り組んでいます。



早期発見が命を救う。

私は、左乳房全摘術を受けました。病名は、非浸潤性乳管がんでした。

毎年、健康診断で乳房エコーは受けていました。初めてマンモグラフィーを受けた時のことですが、検査を受けたことに満足し、結果を確認しないまま封筒を開いたのは数カ月後。そこには、「左乳房石灰化 判定 D 精密検査要」と書かれていました。それなのに、しこりも無いし、大丈夫だろうと勝手に判断し、再検査を受けませんでした。

健診でのマンモグラフィーは2年毎しか受けられない為、その年の健診は、対象外でした。しかしその時、市から無料健診の黄色い封筒が届いていたのを思い出し、再度マンモグラフィーを受けることが出来ました。石灰化と思われる部分が昨年と比較して長くなっているのを、組織検査をすることになりました。

1週間後に知らされた結果は「乳がん」。私は何も考えられなくなりました。一番なりたくなかった乳がん。人生のピリオドが見えた気がしました。

しかし私の場合0期で発見されたため、10年後の生存率は99%と説明を受けました。ただ、病変が複数あったので、乳房温存手術は出来ませんでした。子供たちは、「おっぱいが無くてお母さんはお母さん。温泉に行くときも私が守ってあげる。」と言ってくれました。また、主人や両親、兄弟の支えで病気を受け止めることができました。

私は、幸運だったと思っています。なぜなら、乳がんは早期発見で命を落とす可能性が低いがんだったことと、このがんのおがげで、半年毎に造影CT・マンモグラフィーなどの検査をしてもらえるからです。また、早期発見により放射線療法や抗がん剤治療を受ける必要もなく、術後18日で仕事に復帰できたのです。

また幸運なことには乳房再建手術が保険適応となり、今までの自分を取り戻すために再建手術を受けました。手術前と変わらない体に変身して、幸運な人生の続きを楽しんでいます。

私は、自分の体験を通して、どれだけ早期発見が大切かが分かります。だから皆さんも、ぜひ乳がん検診を受けてほしいと思います。

外科 副部長
永田 好香



総合力で挑む。

個別化する乳がん治療に

外科 部長
佐伯 俊宏



形成外科 部長
瀬崎 伸一



外科
高 すみれ

